

## 台湾から45時間、与那国島に到着 3万年前の旅再現

米山正寛 2019年7月9日11時38分



与那国島に到着した丸木舟（9日午前、「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」提供）



伴走船で一足先に与那国島に到着し、取材を受ける海部陽介・プロジェクト代表＝9日、「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」提供

最初の日本列島人はどうやって黒潮が流れる海を渡ったのかという謎の解明を目指し、台湾から航行していた丸木舟が9日午前、約45時間かけて目的地の沖縄県・与那国島に到達した。国立科学博物館による「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」がサイトで公表している軌跡などによると、海岸の数百メートル沖をしばらく航行。目的の浜に午前11時48分に到着した。



男女計5人の漕（こ）ぎ手が乗ったスギ製の丸木舟（長さ約7・5メートル）は、7日午後2時38分（日本時間）に台湾東海岸の烏石鼻（ウーシービー）を出発。3万年以上前の旧石器人を想定し、時計やコンパス、GPS機器などは持たず、太陽、星などの位置を頼りに、交代しながら漕ぎ続けた。安全の確保のため、丸木舟の航行

に影響を与えない形で、別の船が伴走した。

途中、雲で星が見えなかったり、太陽が真上だったりして、方向を見定めることが難しい時間帯もあった。それでも、秒速1～2メートルで流れる黒潮を横切り、与那国島の島影を海上でうまく見つけることができたという。航行距離は225キロあまりだった。

プロジェクトは2016年に草で、17、18年に竹で作った舟を使い、与那国島—西表島間や台湾東海岸沖などで実験したが、いずれもうまくいかなかった。（米山正寛）

---

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.